

神奈川県におけるヨコヅナサシガメの分布拡大

高桑正敏・浜口哲一・槐 真史

Masatoshi Takakuwa, Tetsuichi Hamaguchi and Masashi Enju :
Dispersal of *Agriosphodrus dohrni* (Hemiptera: Reduviidae)
in Kanagawa Prefecture

はじめに

ヨコヅナサシガメ *Agriosphodrus dohrni* (Signoret) は東洋熱帯に広く分布する大形のサシガメ科半翅類である。日本では1928年の九州での発見が最初と考えられており、また明治時代に中国から渡来したと考えるのが妥当なようである(以上、大野, 1991)。1970年代後半から中部地方に進出するようになり、1990年代に入って関東地方からも記録されるようになった。現在までのところ栃木県(小峯, 1995)が北限の記録であり、また八丈島での記録(八木下, 1994)もある。神奈川県内でもすでに、後藤(1992)により横浜市西北部での発生が確認されているほか、平野(1995)は真鶴半島からの1個体を記録している。また、筆者らの1人高桑(1997)は神奈川県内の帰化昆虫を解説した中で、平野(1995)の真鶴半島における記録を紹介するとともに、未発表ながら小田原市などで採集されていることを述べている。

筆者らはここで、神奈川県内のいくつかの確認例を追加するとともに、いままでに得られた情報を基に分布拡大の状況を概観する。県内の同好者にあつては、本種の今後の分布拡大動向に注意をお願いしたいと思う。

本文に先立ち、本種に関する文献などのご教示をいただいた東洋大学の太野正男教授、情報を提供して下さった田代 治、後藤好正、遠藤清司、樽 創、守 桂子、中田利夫、荏部治紀の各氏、写真を提供して下さった日下正武氏に心からお礼申し上げる。

神奈川県内における発見例

- ①1992年5月28日；6月5日、横浜市緑区奈良町こどもの国(後藤, 1992)
園内数カ所で確認されていることに加え、前年

の1991年にも目撃されたということで、当時同地では確実に発生していたものと思われる。樹木に付いて持ち込まれたと考えられている。

- ②1995年5月20日、足柄下郡真鶴町真鶴半島(平野, 1995)

農薬散布の後に地上で1死骸が発見されたもの。

- ③1996年5月3日、小田原市南町、田代 治・高桑正敏採集

田代氏は、住宅地のサクラ並木の1本のサクラ古木の幹に多数の羽化直後の個体を確認し、そのうちの2頭を神奈川県立生命の星・地球博物館に持参した。高桑は田代氏に現場を案内してもらい、幹から多数の脱皮殻も確認するとともに3頭を追加採集した。これらの標本は同博物館に収蔵される予定である。

- ④1996年5月15日、小田原市入生田、1個体、樽創採集

国道1号にかかった歩道橋の上にいた個体を採集したもの。県立生命の星・地球博物館に収蔵予定。

- ⑤1996年7月3日、小田原市水ノ尾、1個体、樽創採集

クヌギの樹幹で捕食中の個体を採集したもの。県立生命の星・地球博物館に収蔵予定。

- ⑥1997年4月29日、足柄上郡中井町比奈窪、日下正武撮影(図1, 2)

クリの幹上で成虫および羽化直後の成虫を発見、撮影したもの。

- ⑦1997年5月17日、小田原市小田原城青橋、1死体、樽 創採集

- ⑧1997年5月25日、中郡二宮町百合ヶ丘(葛川土手)、遠藤清司採集

サクラ並木のサクラの幹で2個体目撃。採集された1個体は平塚市博物館に収蔵(標本番号 HCM-



図1 ヨコヅナサシガメ (中井町；日下正武撮影)

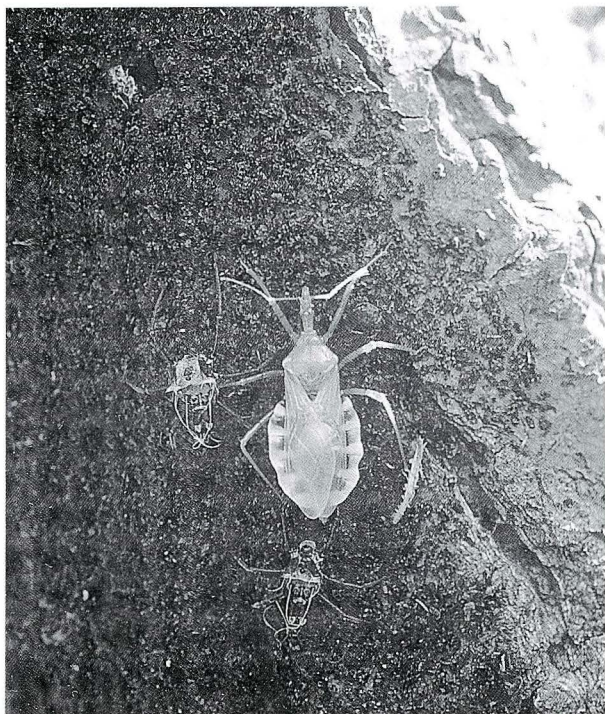


図2 羽化直後のヨコヅナサシガメ (中井町；日下正武撮影)



図3 農薬散布で死亡したと思われるヨコヅナサシガメ (真鶴町；高桑撮影)

52-17855)。

⑨1997年6月13日，足柄下郡真鶴町県立真鶴自然公園内，多数死骸，高桑正敏・荻部治紀確認，うち死骸2頭採集(図3)

真鶴自然公園内ではマツノマダラカミキリを殺害するという名目で，毎年5－6月にマツ梢上から農薬を散布しており，その効果とほかの昆虫に対する影響を調査したおりに発見したもの。調査地点はその数日前に農薬を散布したらしく，いずれの個体も地面上ですでに死亡していた。

⑩1997年6月15日，秦野市渋沢峠，1個体，守桂子採集

自然観察会の折に採集されたもので，会を主催した中田利夫氏の話しではその2年ほど前から本種を目撃しているという。標本は厚木市立郷土資料館(仮称)に保管されている(昆虫標本番号23851)。

考 察

県内から本種が初めて採集されたのは，1992年に横浜市緑区こどもの国からであった。この時点で園内の数カ所から確認されていること，および前年の1991年にも発見されていたことで，確実に同地で発生していたと考えられる。また，同地への進出は樹木の移動によるものと推察されている。同地ではその後，しばらく未発見だったものの1997年に再確認された(後藤好正氏からの私信)。ただし，その周辺ではまだ発見例がないという。周辺地域をくわしく調査していないので断定できないが，園内から周辺への分布拡散はなされていない可能性がある。

2番目の発見が1995年における真鶴半島からの

1 死骸である。ここでは1997年にも死骸が多数発見されたことで、いまや完全に定着したものと見なされる。すでに静岡県三島市や中伊豆町、修善寺町など(真鶴まで直線距離で約20-25km)では1992年に発見され、その後も継続的に発生している(加須谷, 1995)とされるので、真鶴へは三島市方面からの個体が進出したと考えることもできる。ただし、それがまったく自力によるものか、それとも自動車の移動などで人為的に運ばれたものかは分からない。

真鶴での発見の翌年には、小田原市内での発生が確認されるに至る。その状況からはすでに1995年には小田原に進出していた可能性が強い。ただし、樽氏は1996年に市内の他のサクラ並木のいくつかを注意したものの発見できなかった。このことから、小田原への進出はごく最近であり、しかも市内各地にはそれほど広がっていないと見なしてよいだろう。また、小田原市への進出は真鶴方面から(直線距離で約10km)の個体によるものと考えて不都合はないが、真鶴への進出同様に、それが自力によるものか人為的に運ばれたものかは分からない。

1997年には秦野市と中井町、それに二宮町でも相次いで発見された。その確認状況からは、いずれの地域とも偶然に飛来した、あるいは運ばれたのではなく、すでに発生していたものと考えられる。これらの場所への進出は、距離的な近さを念頭に置けば小田原市方面から(直線距離で約10km)、と考えることもできる。一方、静岡県側では1993年に御殿場市(鈴木, 1994)、1997年に小山町の東名高速道足柄サービスエリア内(1 個体, 6 月15 日、槐目撃)で発見されていること、および秦野市ら3 地点はいずれも東名高速道路に多少とも近い点を考慮すれば、御殿場市～駿河小山町方面から東名高速道路沿いに進出してきたという可能性もある。すでに鈴木(1994)は本種の東進に関し、高速道路が重要な役割を果たしていることを指摘している。小田原方面からと考えれば自力による分布拡大、東名高速道路ルートと考えれば自動車などで運ばれたものが定着した可能性も強くなるわけで、小田原ないし駿河小山との間、すなわち

足柄平野での生息状況に興味もたれる。

おわりに

以上のように、本種は最近になって神奈川県内に進出し、分布域を拡大してきた。今後どのように分布をさらに拡大していくのか、見守っていく必要があるだろう。同時に、その進出・拡大の方法には2 とおりが考えられる。すなわち、園芸樹や物資、自動車などの移動による人為的な手段での一気の分布拡大であり、また自力による通常は漸進的な分布拡大である。両者の見極めは必ずしも明らかではないが、多数の記録が集積されれば判断も可能となってくる。さいわい本種は、冬期にサクラ類の古木の幹に幼虫が群集する習性もあって発見が比較的容易であり、多くの方々に注意をお願いしておきたい。

引用文献

- 後藤好正, 1992. 横浜市北西部の半翅類分布資料 (2). 神奈川自然保全研究会報告書, (11): 17-24.
- 平野幸彦, 1995. ヨコヅナサシガメ, 真鶴半島の悲しむべき記録. 昆虫と自然, **30**(14): 17.
- 加須屋真, 1995. 伊豆でヨコヅナサシガメ発見. 昆虫と自然, **30**(9): 30-32.
- 小峯洋一, 1995. 南那須町でのニホンホホビロコメツキモドキ・ヨコヅナサシガメ・モリチャバネゴキブリ・ミヤマサナエ・オオスカシバの記録. インセクト, **46**(2): 73-74.
- 大野正男, 1991. 日本の帰化昆虫(2)ヨコヅナサシガメ. 自然誌研究雑誌, (1): 19-32.
- 鈴木 裕, 1994. ヨコヅナサシガメとヨコヅナツチカメムシを静岡県御殿場で採集. *Rostria*, (43): 37-38.
- 高桑正敏, 1997. 帰化昆虫—その現状と人為がもたらす問題—. かながわの自然, (59): 22-28.
- 八木下潤, 1994. 八丈島でヨコヅナサシガメとニイニイゼミを採集. 月刊むし, (286): 25-26.

(高桑: 神奈川県立生命の星・地球博物館, 浜口: 平塚市博物館, 槐: 厚木市立郷土資料館(仮称))